

令和4年度 第3回（第12期第4回）八尾市環境審議会温暖化対策部会 会議録

○日 時 令和4年12月1日（木）午後2時30分 ～ 午後4時

○場 所 Zoomによるリモート会議での開催

○出席委員 花田委員、原委員、鍋島委員

○オブザーバー 大阪府環境農林水産部脱炭素・エネルギー政策課 岩井田課長補佐

○事務局 環境保全課 高谷課長、新葉係長、巴山副主査、大山副主査、植田主事
（運営支援：中央復建コンサルタンツ株式会社）

○傍聴者 Zoomによるリモート会議のため傍聴者席を設置せずに開催

○当日次第

- 1 開会
- 2 審議事項
八尾市地球温暖化対策実行計画案について
- 3 その他
- 4 閉会

○配布資料

- 資料 1 : 八尾市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定概要
資料 2 : 八尾市地球温暖化対策実行計画案
参考資料 1 : 市民向け計画案（概要）

○議事の概要及び発言の趣旨

1 開会

2 審議事項

八尾市地球温暖化対策実行計画案について

資料1、資料2、参考資料1を説明。

<意見等>

委員

資料1について、主にこれまでの部会で議論していた2030年度の温室効果ガス排出量の目標、今回の計画案で新たに追加された施策についてご説明いただいた。資料2について、計画案の全体的な説明と、計画をわかりやすくするために注力している箇所についてご説明いただいた。参考資料1について、市民向け計画案の情報提供があった。以上の内容について、ご意見いただきたい。

委員

資料1の3～4ページに示されている「基本施策1『再生可能エネルギー利用の促進』」については、「再生可能エネルギー利用の促進（電気・熱）」のように、再生可能エネルギーには電力利用と熱利用の2つの種類があることがわかるような表記が良いと考える。また、資料1の4ページに示されている「未利用エネルギーの活用の検討」の具体的内容として、「ごみ焼却場の排熱利用の拡大、工場排熱、地中熱、下水熱、空気熱等の活用を検討する。」とあるが、空気熱は、再生可能エネルギーに分類することが適当である。熱利用としては、再生可能エネルギーの熱利用と未利用エネルギーの熱利用があるため、正確に書き分けるべきと考える。

事務局

資料2の24～25ページに示している再生可能エネルギーのポテンシャル調査結果は、発電量と熱利用量に分けて表記している。これを踏まえて表現方法を考え、いただいたご指摘に対応していきたい。

また、先ほどの事務局の説明に一点補足すると、資料1の1ページに示している2030年度の温室効果ガス排出量の目標（中期目標）は、これまで「八尾市域からの温室効果ガス排出量を令和12年度（2030年度）までに平成25年度（2013年度）比で50%以上削減をめざす」としていたが、「50%以上削減」とすると到達点として目標設定の明確化が難しいため、「50%削減」と明記することとしている。

委員 今回のご指摘を受けて表記を改めた場合は、ご指摘いただいた委員に一度確認していただくと良いと考える。再生可能エネルギーと未利用エネルギーでは、導入に向けた取り組み方が異なると考えるため、その違いを明確にすることができると考える。

委員 計画案は、以前に比べて全体的に具体化されたと思う。取組の中に記されているPPAやサステナブルファッション等の市民にとって馴染みのない言葉や明確な定義が分かりづらい言葉については、定義を明確にし、説明を加えると良いと考える。

委員 言葉の定義については、丁寧に書こうとするとページ数の増加等、わかりづらくなることもあると思うため、留意いただきたい。資料編に用語解説がついているが、新たに追加された取組の中で使われている言葉（水素エネルギー等）が示されていない場合があるため、確認いただきたい。

推進体制については、単にゼロカーボンシティやお推進協議会を運営するというだけでなく、事業者同士による新たなビジネスや技術開発など、基本施策5を実行するプラットフォームとして効果的に運営していくための取組を示すことが重要と考える。

また、八尾市の将来像のイラストは、少し堅い印象を受ける。人のイラスト等で市民の行動が分かり、高安山や八尾空港等で八尾市であることが分かるイラストであると市民にとって身近

に感じられると思う。

資料1の2ページに示されている部門別取組指標に「里山保全活動の参加人数」とあるが、里山の保全活動と吸収源との関連性についてお教えいただきたい。

事務局

里山の保全活動は、実質的に森林整備のことである。現状の温室効果ガス排出量の推計では、炭素吸収源を考慮しておらず吸収量は0としているため、この取組指標に対する排出量削減目標は設けていない。ただし、他地域では、活動に対してカーボンオフセットのような形でCO₂の削減量を考慮している事例も存在する。

委員

市民の活動を指標として表すということと理解した。オブザーバーから情報提供、コメント、アドバイスをいただきたい。

オブザーバー

取組指標として具体的な目標値を設定しており、将来像のイラストもあり、分かりやすい計画案になっていると思う。

資料1の2ページの表8に示されている実績値・目標値は、累積値であるか単年の値であるかをわかるようにしていただきたい。また、この表中の「電動車」という表現について、大阪府地球温暖化対策実行計画ではハイブリッド車も含めて電動車としているが、資料2では「EVなどの電動車」とあるため、何を指しているのか定義していただきたい。さらに、表8中のCO₂の表記がCO²となっているので修正いただきたい。

また、八尾市の将来像のイラストに空飛ぶクルマが描かれているが、単位移動距離当たりのエネルギー消費量が通常の自動車より大きいため、ゼロカーボンシティのイメージとして、適切か検討いただきたい。

資料2の1ページに示されているIPCCの第5次評価報告書については、第6次評価報告書の作業部会毎の報告書が公表されているため、その内容を反映し、最新情報を載せると良いと考える。同様に、資料2の5ページに示されている気候変動適応計画

については、昨年10月に改定されているため、その内容を反映し、最新情報を載せると良いと考える。

事務局

資料1の2ページの表8に示されている実績値・目標値については、累積値であるか単年の値であるかをわかりやすく整理していく。表中の「電動車」の定義については、注釈の中で定義づけを行い、CO²の表記については、修正する。八尾市の将来像のイラストについては、八尾市が考えているイメージを具体的にしていく中でもう少し整理が必要と考えている。

資料2は、現在修正中であり、IPCCの第5次評価報告書に関する記述は、第6次評価報告書の内容に更新の予定である。計画案の中で文章を更新する箇所は12月中をめどに完成し、部会長に報告し、答申案につなげていく。

また、用語の定義については、新たに資料編の用語解説に追加し、取組内容として重要な用語はコラムとして解説を示すことも考えているため、整理を進めていく。

計画の推進体制については、基本施策5の中でゼロカーボンシティやお推進協議会の取組について具体的に示していく。今年度、協議会のポータルサイトを作成し、市民や事業者の情報共有や好事例の展開につなげることを考えており、これらも含まれば、具体的な取組が見えてくると思う。

委員

電動車の定義については、大阪府地球温暖化対策実行計画で用いられている定義があるため、それに合わせるものが適切と考える。

委員

部門別取組指標の目標値については、具体的な数値になっているが、どのように計画を実行して目標を達成していくかが重要と考えており、それを明確化できると良いと考える。

委員

コラムも示されており、わかりやすい仕上がりになっている。今いただいたご意見にもあるように、目標の達成には計画を活

用していくことが重要と考えている。ところで、八尾市には、小学生向けの環境副読本は存在するか。

事務局

環境副読本はないが、小学校への講師派遣は行っている。

委員

イラストやコラムなどがあり、わかりやすい計画になっているため、例えば小学校の授業等で活用することで、八尾市民としてのゼロカーボンにつながる取組について小学生が考えるきっかけになれば良いと考えている。小学生に向けた啓発は、親世代や祖父母世代への波及効果も考えられ、取組が広がっていくと思う。

事業者に対しては、制度等の情報が行きわたらない現状が他の地域では存在する。計画の取組の中で情報提供ということが示されているが、ゼロカーボンシティやお推進協議会が制度等に関する情報提供の場、八尾市への相談の場になれば良いと考える。

3 その他

<意見等>

事務局

第12期の八尾市環境審議会温暖化対策部会は、本日が最後である。今後のスケジュールについて、本日いただいたご意見を計画案に反映し、答申案を作成し、第3回八尾市環境審議会に諮る予定である。第3回八尾市環境審議会は12月中旬の開催を予定している。

4 閉会